

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR F 作業班 (第9回) 議事要旨 (案)

- 1 開催日時：平成 25 年 12 月 2 日 (月) 14 時 00 分～17 時 00 分
- 2 開催場所：金融庁 14 階 1414 会議室
- 3 出席者 (順不同)

【構成員】山下主任 (JET)、平伴主任代理 (パナソニック)、前川構成員 (ダイキン)、篠塚構成員 (NICT)、井上構成員 (KEC)、三塚構成員 (TELEC)、菅野構成員 (NTT)、業天構成員 (パナソニック)、徳田構成員 (東京大学)、大嶋構成員 (NHK)、梶原構成員 (JQA)、中野構成員 (JEMA)、森光構成員 (パナソニック)、多氣主査 (オブザーバ)、服部氏 (オブザーバ) (NTT-AT)、

【事務局】総務省：澤邊専門官、黒田係長、寺田官

4 議事概要

【資料 9-1】

前回の議事要旨について、修正意見があれば、1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された。

【資料 9-2】

- Beeckman からは特段言われていないが、送付されてきた資料には、メンバー構成 (5 月)、データ提供 (7 月)、製品化情報提供 (7 月)、最終ドラフト作成 (9 月) が目安として記載されている。【山下主任】
- 今回設置するアドホックグループは 1 つではなく、WPT の検討が行われている SC/B,F,I それぞれに対応する CISPR/B,F,I 各作業班に設置される。【事務局】
- WPT 作業班との関係は、WPT 作業班で取得したデータ等を TF に入力していく等、連携をしていく。そのため、WPT 作業班のメンバーは、各作業班で状況を報告するようにはしていただきたい。【事務局】
- TF は通常個人参加 (工業会の代表等) であり、自由に意見を言っても良い場であるが、それを事前に国が調整する必要はあるのか。【前川構成員】
- このアドホックグループは、エキスパートの手助けとなる位置づけ。国のとしての正式な意見は、CD 案に対して言えば良く、それまではサポートとしての位置づけが適当。【徳田構成員】
- WPT は、用途によって電力や使用法が違うため、全部まとめて議論しようとする意見がまとまらず、議論が進まない。そのため、議論を具体化し、着実に議論が進むよう、3 つの分野に提案したため、それぞれ規格は違ってくる。【井上構成員】
- WPT をそもそも推進することになった経緯は、電波利有効利用促進に関する検討会

で高周波利用設備の円滑な導入の一部として、WPT を推進するような報告書になったことや、WPT に関する規制緩和要望もあり、国際的な規格と調整する方向で検討することになったため。【事務局】

- CISPR 規格は、電波法に取り入れた上で、型式指定等の制度作りをする方向で検討を進めている。【事務局】

【資料 9-3】

- CISPR オタワ会議 SC/F 審議結果について、山下主任から報告があった。
※2 kHz ~ 150 kHz の規格整備については、CISPR 全体としての文書が消極的な意見が多かったため、取り扱わないこととなった旨が説明された。

- WG での決定事項も電波環境委員会報告に入れておいた方がよい。【井上構成員】
→了承された。

【資料 9-4】

- CISPR オタワ会議 SC/F WG1 の審議結果について前川構成員から報告があった。
- P2「IH 調理器のクッキングゾーンは個別に1つずつ評価することの記述案を修正した」とあるが、ここでいうクッキングゾーンとは？【三塚構成員】
→IH 調理器の表面上○（まる）が書いてあるところを指している。【前川構成員】
- P4「GHz 帯のイミュニティは次のメンテナンスで見直す可能性あり」とあるが、その背景は何かあるのか？【森光構成員】
→他の規格では拡大されているため【前川構成員】

【資料 9-5】

- CISPR オタワ会議 SC/F WG2 の審議結果について、平伴主任代理から報告があった。

【その他】

- 本日の審議結果報告を基に、1月の電波利用環境委員会で CISPR オタワ会議の SC/F の審議結果を報告することとなった。
- 次回の作業班の開催については、開催が決まり次第、構成員あてに連絡することとなった。